

## ★冬季を利用した整備・点検のススメ★

### 整備・点検の重要性



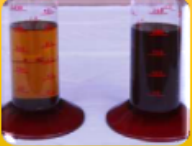
皆さん、冬季に入り、シーズンオフの方も多いと思います。

春のシーズンインに向け、使用頻度の低い今のうちに愛艇の整備・点検を行うことにより、

- ◆艇体各部の状態を把握できる
- ◆不具合箇所を早めに整備することで、悪化した場合に比べ修理費用を大幅に減らせ、愛艇の寿命も延びる
- ◆シーズンイン時に余計なトラブルを起こさないで済む


というような利点があります。

### 整備・点検は専門業者へ依頼し、万全の体制を確保




**エンジンオイル・オイルフィルター・燃料フィルターの交換又は清掃**

- ◆エンジンオイルは、エンジン内部の潤滑、密封、洗浄、防錆といった役割を果たしていますが時間とともにエンジン内のゴミや金属粉等で汚れたりオイルの粘度が失われ、本来の役割が果たせなくなってしまいます。
- ◆同様に各フィルターについても交換や清掃が必要です。併せて交換しましょう。




**スパークプラグの交換**

- ◆1年に1回はスパークプラグを交換してください
- ◆劣化したものを使い続けると、エンストや出力低下、始動不良の原因となります。整備・点検を怠り、プラグの固着がしたり、最悪折れてしまうと、修理費用が高額になってしまいます。




**バッテリーの点検・交換**

- ◆バッテリーは、消耗品です。使用頻度によりますが、定期的な交換が必要です。概ね2～5年ほどが寿命と言われていますが、使用頻度が少ないと2年以内でも劣化する場合があります。
- ◆電圧を確認するとともに、端子接続部の緩みや腐食を点検してください。



**アノード（防食亜鉛）の交換**

- ◆消耗品ですので、必ず交換しましょう。
- ◆無くなってしまうと、海水の電気化学的作用による浸食からエンジン本体内外部や金属部分を守れなくなってしまいます。



**艇体の清掃（フジツボ等の除去）**

- ◆フジツボや海藻などが付着すると想像以上に抵抗が発生します。
- ◆その影響で、速度の低下・過負荷によるオーバーヒート・エンジンへの悪影響を誘発させるので、清掃してきれいな状態にしておくことは重要です。

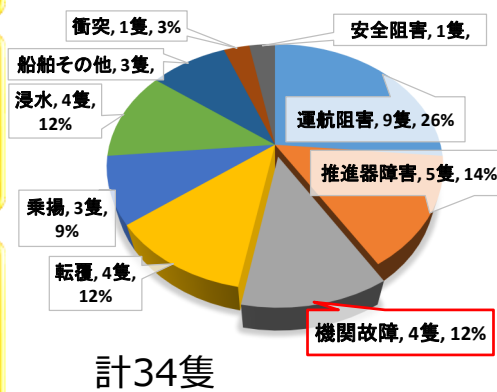
★ここでは、代表的な整備・点検項目について記載しました。

★船やメーカー、エンジンの種類によって、交換部品や点検事項が変わってきますので、詳細はメンテナンスマニュアルや取扱説明書・保証書に従ってください。

交換時期が記載してあります。

★機関故障は、整備・点検を行っていれば大幅に防ぐことができます。

【東北における機関故障の状況】



使用頻度が少なく交換時間に達していない場合も、1年に1回は整備・点検を受けることを推奨します！

## ボートの使用環境は苛酷！

### エンジンの高回転による影響

- モーターボートや水上バイク等は一般的に、「非常に高回転数となる」ため、エンジンへの負担やエンジンオイルへの影響が大きい。

### 海水・潮風による影響

- 常に潮風や海水の影響を受けており、さらに海水を利用してエンジンを冷却しているため、車と比較して、錆や腐食が発生しやすい。

### 波の衝撃による影響

- 海上では常に波の影響を受けており、海上を航走する際は、強い衝撃を受けます。

## 水上バイクの整備・点検

- 表面の代表的な整備・点検項目を参照願います。

- 水上バイクについても、メーカーやエンジンの種類によって、交換部品や点検事項が変わってきますので、詳細はメンテナンスマニュアルや取扱説明書・保証書に従ってください。

- スーパーチャージャーやターボチャージャー付きのものは規定の時間数でオーバーホールが必要となるものが多いので、注意が必要です。

**定期的な点検も大切ですが、普段からの自己点検も重要です！**

## 釣り中の事故発生状況（1月）

### 手漕ぎボートからバランスを崩して海中転落

男性2名は、沖防波堤で釣りをしようとして手漕ぎボート（2名用）に乗船して手漕ぎで沖防波堤へ向かいました。到着したものの、波の影響でうまく着岸することができず、手間取っていたとき、バランスを崩してそのまま海中転落し、手漕ぎボートも転覆状態となりました。2名とも自力で上陸し助かりましたが、1人は低体温症から腎機能障害となり、集中治療室で治療を受けることとなりました。

- ★手漕ぎボートは、安全に航行できる限界が低いことを十分理解して運航し、無謀な計画は立てないようにしましょう。
- ★最大積載重量の表示を確認して、乗船者を含め、重量に余裕をもって使用しましょう。



### 釣りの際、潮の干満を考えなかったため、帰還不能

男性2名は、磯場において前日夜から当日朝まで釣りをしていました。朝の満潮時刻になると潮が上がってきて、干潮時間帯に歩いてきた経路を戻ることができなくなりました。そのため、干潮時間まで待つことにしましたが、次第に波が高くなり、足元に迫ってきたことから、危険を感じ、救助を要請しました。

その後、水難救済会所属船により救助されました。なお、当日は風雪、波浪、高潮注意報が発表されていました。

- ★事前に気象情報を確認することはもとより、帰還不能になるような場所で釣りをせず、自らの安全を確保できる場所で釣りをしましょう。
- ★魚よりも自らの命が大切です。



現在、水温が低下し「海中転落＝死亡事故」の可能性が非常に高い。

自分の身を守るためには、自らの心がけが第一歩です！



マリレ情報よろず屋

～バックナンバーはこちら～

海の安全情報スマホ版サイト

（沿岸域情報提供システム）



マリレ情報よろず屋に関するご質問等は、「022-365-9609（直通）」までご連絡ください。担当者がお答えします。パソコンの方：「マリレ情報よろず屋」「海の安全情報」で検索！